

【夏の地貌季語の解説】

東日本 「筑波かみなり」（つくばかみなり）

おこた
怠りて痛棒のごと筑波雷 鈴木 湖愁

「筑波雷」ともいう。全国の地域により特有な雷の呼称がある上州の雷、さらに上州崩れの佐久の雷は名高いが、「筑波かみなり」もそのひとつ。筑波山は常陸の名山。筑波山の名をかぶせた筑波かみなりとの呼称は昔から怖れられながら、親しまれている。茨城の県西地域特有な異常気象である。落雷の頻度も高い。

西日本 「土瓶割り」（どびんわり）

土瓶割りの横面はつてやりたかし 阿波野 青畝

尺取虫の別称である。尺取虫は尺蠖とも書く。シャクガ科の蛾の幼虫である。この虫には他にさまざまな呼び方がある。寸取虫、杖突虫、屈伸虫、あるいは、尺虫、尺など。ところで土瓶割りとは、クワエダシャクの幼虫が桑の木に斜めに休むのだ小枝のように見える。そこで野良仕事のお百姓が枝と間違え、土瓶を掛けて割ってしまうという。富山県氷見市や愛知県知多郡や兵庫県揖保郡などでは尺取り虫の方言として残っている。